
faker/stay night

Mr.HANA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

f a k e r / s t a y n i g h t

【Nコード】

N 8 9 4 7 Z

【作者名】

M r . H A N A

【あらすじ】

第四次聖杯戦争を終えた衛宮切嗣。

だが彼は自身を蝕む呪いと、まだ聖杯戦争が終えていないことを知る。

自身の業とその技の全てを彼はたった一人の少年に託すことにした。少年の名前は衛宮士郎。

そして少年の運命は、全く別の軌跡を描くことになる――！

第零話『邂逅』（前書き）

作者の処女作です。

全てを諦めた正義の味方が、もしその禍根に気づいていたら。

グロ描写。若干のエロ描写。

また、MOB程度にオリキャラ、独自解釈あります。苦手な人は注意。

第零話『邂逅』

——正義の味方に、なってくれないか？

親父は言った。

——勿論。だって、ソレが俺の願いなんだから

俺はそう言つて、小指を伸ばした。

結ばれる二つの指。

それが俺の約束。

それが俺の全て。

あの月の綺麗な縁側で結んだ。

衛宮士郎を形作る、たった一つの願望——

——たとえばそれが、どんなに・・・いたとしても——

魔術とは人の手を用いて人為的に起こす神秘・奇跡のことである。
人の意識、無意識は元々一つの渦に？がっている。

細分化した流れの中で一般的な方法ではたどり着けない、その元に
？がる探求をする者達がいる。

それこそが魔術師と呼ばれる存在だ。

彼らは原初にして1。根源と呼ばれる大本を学ぶために魔術という
奇跡を学ぶ。探求こそが彼らの魔術を行使する理由であつて、魔術

を行使する、ことが目的となってしまうては、それはもう魔術師ではない。
ましてや、それを自分の快楽のために使うなど。
許されるはずが、ないのだ。

闇夜の埠頭を一つの人影が駆けて行く。

その男は奇妙な風貌をしていた。やつれた西洋風の顔立ちに黒のドクロを模ったフード付きパーカーと、長い足に似つかない短パン姿。何より奇怪な部分は、その露出した首元と両足に巻きつくように存在する、銀の鎖の存在である。

無数に絡まるその鎖は、まるでそれぞれが意志を持つように、装飾者の身を縛り、蠢いている。

——刹那、空からの一条の閃光が男を襲う。

それは閃光と言うには眩し過ぎる、破壊の光だ。光は不規則な軌道を描きながらも男に、迫る。

「——！」

金切り声のような叫びが、男の声から漏れ出る。瞬間、男を縛る鎖が反応した。液体のように波紋を浮かべた鎖が風を切り、幾重もの盾となって男の頭上に展開する。

一重二重三重——

巻きつく回数を増やすことによって、その硬度を増していく。

男は水銀を固定化した魔術を得意としていた。

彼を守る鎖は『墮落した蛇』と呼ばれ、一種の魔術礼装としての機能をもっていた。遠距離からなら弾丸も防ぎうるその防御に、男は絶対の自信を持っていた。

しかし頭上から来襲した光は、その男の自信とともに、水銀の守り

の力を無残にも貫く——！

「な——！？」

目を見開く男を、そのまま紅い光が飲み込む。

光が晴れたとき、彼の胸元には朱色の刃が突き刺さっていた。自分の防御が破られた、その絶望を持って絶命した男の前に、一つの影が姿を現す。

——絶命した男が奇妙と言うのなら、現れた影は異端であった。身の丈を覆うような灰色の外套。鍛え、無駄の無い全身の肉を黒塗りの甲冑が被さっている。

茶の短髪とその顔立ちはまだ幼さを残すものであるが、その目付きは鋭く激しさと獰猛さを感じさせる。

何より目を引くのは手だ。

その手には、現代という時代に合わない黒塗りの弓があった。

灰色の外套を身に纏う少年は刃を生やす男を見つめていたが、ふうと喉を吐くと、弓と男に突き刺さった刃が光の粉となって消える。

「正義の味方——俺が望むモノ——これが？」

慟哭にも似た呟きが、誰もいない空間に浮かんで消えた。

灰色の少年の名を、衛宮士朗。

それは確かに正義の味方を目指す——紛れもない殺人者であった。

第零話『邂逅』（後書き）

とまあ始まりました。

原作とは全然違う展開になっていきますが、どうかご容赦下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8947z/>

faker/stay night

2011年12月28日02時46分発行